

学林舎情報

NO. 167

共創ネットワーク

●発行日：2016年6月18日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行:教材出版 学林舎



学習教育の行き先 全国学力テスト分析 小学校編

B 問題では、昨年度に比べて「読むこと」の領域の問題が 3 問減り、「話すこと・聞くこと」の領域の問題が 3 問増えました。大問 1 は「話すこと・聞くこと」の問題で、話の展開に応じて質問し、必要な情報を得る問題でした。この問題では、インタビューメモをもとに、話し手の意図を捉えながら聞いたり、話の展開に沿って質問したりすることができるかどうかをみるねらいがあります。これは、相手や目的、意図に応じて、事柄が明確に伝わるように工夫することや、話の内容や話し手の意図を捉えながら聞いたり、質問したりする能力が備わっているかどうかを、確認していると考えられます。

□小学校算数

小学校算数でも、問題形式や出題問題数については、昨年度から大きな変更はみられませんでした。

A 問題では、出題問題の総数は変更されていませんが、「数と計算」の領域での出題が、昨年度より 2 問増えていました。また、大問 2 設問 (4) で、分数 × 整数の計算をした上で約分したあとの答えを求める問題が出題されていました。大問 2 は四則計算の問題で構成されており、主に整数や小数、分数の計算をすることができるかどうかをみます。分数 ÷ 整数、分数 × 整数の計算は、H24、H25、H27 年でそれぞれ出題されていますが、約分したあとの答えを求める問題は、今年度が初めての出題となりました。

B 問題でも、出題問題の総数に変更はありませんでした。出題大問数 5 問のうち、図形を使ったものや資料を使ったものなど、バランスよく出題されています。しかし、大問 2 の「ハードル走」を題材にした問題や、大問 3 の「メダル作り」を題材にした問題など、昨年度に比べてより日常生活に即した場面での問題が出題されているという印象があります。

全国学力・学習状況調査は、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てるものです。今年度の調査結果をふまえて、全国の児童・生徒に合った、よりよい教育指導ができる機会が増えることが期待されます。

(文/学林舎編集部)

平 成 28 年 4 月 19 日（火）に全国学力・学習状況調査が実施されました。全国学力・学習状況調査とは、文部科学省が年に 1 回実施している学力調査試験で、小学生では第 6 学年の児童が調査対象となります。出題範囲は、調査する前の学年（第 5 学年）までに含まれる指導事項で、出題内容は、「知識」（A 問題）と「活用」（B 問題）の 2 種類あります。

「知識」は、身に付けておかなければ後の学年などの学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において必要不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などをはかる問題です。また、「活用」は、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力などを確認する問題です。

ここでは、平成 28 年度に実施された小学校国語と小学校算数の出題内容を分析・総括します。

□小学校国語

小学校国語では、問題形式や出題問題数については、昨年度から大きな変更はみられませんでした。

A 問題では、大問 5 で図と表とを関係付けて読む問題が出題されました。この問題は、目的に応じて、図と表とを関係付けて読むことができるかどうかをみるねらいがあります。昨年度の B 問題でも、文章と図とを関係付ける問題が出題されており、図から情報を読み取る問題は 2 年連続で出題されています。表や図を関係付けて読むことは、他教科でも必要な力になります。この問題で、各教科の学習の基本となる国語の能力が身に付いているかどうかをはかっていると考えられます。

学習教育の行き先 全国学力テスト分析 中学校編

平成 28 年 4 月 19 日 (火) に全国学力・学習状況調査が実施されました。全国学力・学習状況調査とは、文部科学省が年に 1 回実施している学力調査試験で、中学生では第 3 学年の生徒が調査対象となります。出題範囲は、調査する前の学年 (第 2 学年) までに含まれる指導事項で、出題内容は、「知識」(A 問題) と「活用」(B 問題) の 2 種類あります。

ここでは、平成 28 年度に実施された中学校国語と中学校数学の出題内容を分析・総括します。

□中学校国語

A 問題では、若干の形式の違いはありましたが、大問 1 で聞き手の立場を想定する問題が昨年から続けて出題されました。また、大問 5 では、電話を受ける相手のことを考えて言葉を選ぶ問題、大問 7 では、相手の発言をどのように聞いているのかについて答える問題など、実生活でのコミュニケーションでも必要とされるような、相手の立場や話の展開などに注意する能力を問う問題が多く出題されました。

大問 9 では漢和辞典を活用した問題が出題されました。この問いは、それぞれの漢字には複数の意味があることを理解し、その中から適切な意味を正しく捉える力を確認することを目的としています。普段、辞典を引く習慣のない生徒には見慣れないものだったでしょう。

B 問題では、昨年と比べて選択式問題が 1 問減り、そのかわりに短答式問題が 1 問増えました。「暮らしの中の伝統文化展」のちらしや、「宇宙エレベーター」を扱った雑誌記事など、日常生活で目にするような身近な資料が題材として扱われました。また、大問 3 でも長文が扱われているなど、ノートやフリップ、グラフを題材にしていた昨年と比べると、読み取る文章量が増えました。一方で、記述式問題の文字量は昨年と比べて減少しました。

□中学校数学

A 問題では、昨年と比べて選択式問題が 6 問減り、短答式問題が 6 問増えました。特に図形問題での短答式問題が増加し、自分で体積を計算したり、立体の名称を答えたりする問題が出題されました。短答式問題が増加したことで若干難易度が上がったといえます。

A 問題の後半では、大問構成に変化がありました。比例の問題では小問が 1 問増加し、一次関数では、具体的な事象を一次関数の式で表す問題が新たに追加されるなど、全体として生徒の思考力を問う問題の割合が高くなりました。

B 問題も、A 問題と同様に選択式問題が減り、短答式問題が増えました。また、図形の問題が減り、数と式に関する問題が増えました。大問 2 では、一次関数の計算問題だけでなく、表に示された数の特徴を見つけ、答えが 1 つにしばられるように加えるべき条件を判断する能力が求められました。他の問題も同様に、単なる計算問題ではなく、ドッジボール大会の計画を立てたり、電気自動車とガソリン車の費用を比べたりするなど、実生活に即した場面で数学を利用する問題が出題されました。

中学校国語・中学校数学の問題に共通していえることは、中学生にとって身近な内容や実生活に即した題材が扱われたことです。つまり、学校で学んだ内容を日常生活の場面で応用する能力が確かめられていたといえます。このことから、学校側の観点では、知識詰め込み型の教育ではなく、身の回りの生活と学習内容を関連付けた教育が今後求められると考えられます。

(文/学林舎編集部)

学習教育の行き先 学校教科書を分析

教科書は、学校現場において最も基本となる教材です。文部科学省では、「小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材」と位置付け、学校現場での教科書の使用を義務付けています。各教科・科目を学習する上で、教員にとっても、子どもにとっても、教科書は欠かせない存在なのです。

□学校教科書の種類

現在、学校現場で使用されている教科書のほとんどが、学習指導要領に沿って、民間の企業が作成しています。文部科学省の調査によると、平成26年度における使用教科書は、小・中学校で使用されている教科書だけでも126種類、427点が発行されています。高等学校の教科書は、800種類以上も発行されています。

□学校教科書ができるまで

教科書が発行され、子どもに使用されるまでには、数多くの審査が必要になります。民間の企業によって編集された教科書は、教科用図書検定調査審議会によって、文部科学省の発行する学習指導要領に即しているかどうか、教育内容として適切かどうか、内容に誤りがないかなどが審査されます。この検定に合格した教科書は、実際の学校現場での使用が認められます。小・中学校の教科書の場合、検定に合格した教科書は、編集した企業によって、都道府県や市町村の教育委員会、国立・私立学校の学校長のもとに持ち込まれます。実際の学校現場で使用してもらえるように、採択の依頼をするためです。各自治体の教育委員会や学校長は、持ち込まれた教科書を比べ、その地域・学校に最もふさわしい教科書を選定し、採択します。採択された教科書は、民間の企業によって発行され、子どもに届けられます。高等学校の教科書の場合、公立もふくめて、各学校の学校長や教員が、その学校の実態を考慮して、教科書を採択します。高等学校とちがい、公立の小・

中学校の教科書が、都道府県や市町村ごとに採択されるのは、義務教育における子どもの教育の機会均等を保障するためです。教科書が著作・編集されてから実際に使用されるまでには、およそ4年の月日がかかります。

□教科書と中学入試、高校入試との関連性

公立の小・中学校の教科書は、各自治体の教育委員会によって、その地域に最もふさわしい教科書が採択されます。つまり、採択された教科書は、その自治体の教育委員会の教育方針に最も近いものだということです。教育委員会が公立の高等学校の入試問題を作成する上で、参考にするものの1つに、その自治体で採択された教科書が挙げられます。したがって、公立の高等学校の入試問題は、採択された教科書の影響を少なからず受けていると考えられます。一方で、私立学校の中学・高校入試は、私立学校の教員が入試問題の作成に携わります。より一般化をめざした公立学校の入試問題では、多くの人の目により精査されますが、私立学校の場合は、一教員の考えが入試問題に反映されやすくなります。その学校で学ぶ上で必要な幅広い知識が、入試問題で問われているのです。

□まとめ

今回の教科書改訂において、一部の民間の企業が、検定中の教科書を小・中学校の校長などに閲覧してもらい、謝礼を渡していたことが発覚しました。本来、検定中の教科書は、外部への閲覧や持ち出しが禁止されているため、これは市場経済においてルール違反といえます。次回の教科書改訂で検定される教科書は、より厳重な扱いが求められています。

(文／学林舎編集部)

クロスロード Crossroad

第 58 回 文 / 吉田 良治

18歳選挙権

来月は参議院選挙が実施されます。この選挙では日本で初めて、18歳から選挙に参加できることになりました。世界的には18歳から選挙権を持つ国が最も多く、これまでの20歳からというのは比較的遅いとされてきました。日本でも今回の18歳選挙権の施行で、若者に政治への関心を持つきっかけになることが期待がされています。

高校や大学でも18、19歳世代に向け、政治への関心を持つための教育やサポートが始まっています。平日に期日前投票ができるようにしている大学もありますし、模擬投票などの授業をする高校もあります。これまで政治とは無関係だった世代が、初めて選挙で投票ができるため、政治に関心が薄いとされていた20～30代にもいい刺激になるといえます。

私はアメリカンフットボールのコーチをした日本の大学では、いつも選挙の時期になると、選挙権がある学生たちには必ず投票することを奨励してきました。自分たちが生きている国、地域のことをまず考えることのできる人間になれ、ということです。どの候補者に、どの政党に投票するのかは個人の選択ですが、投票をすることをおろそかにしてはいけない、という指導をしてきました。これまでそのようなことを指導された経験がなく、当時の学生たちには戸惑いもありました。

アメリカでは18歳は自立を意味しており、高校卒業後に親元から自立することが一般的とされています。以前読売新聞の企画で対談した、元阪神タイガースのマット・マートンも、“高校を卒業してまだ実家にいると、何かおかしいのではないかと、思われてしまう”と話していました。ここでいう自立とは、経済的な自立だけでなく、社会で生きていく上での総合的な意味合いがあります。当然18歳から選挙権を持てるので、政治的な選

択もできるようになるよう、親は子育てをすることになります。そのためには、たとえ支持政党（例えば現大統領のオバマ氏は民主党なら、共和党）と違う大統領であっても、毎年1月に行われる一般教書演説のように、国のトップが国民に向けたメッセージには、子供と一緒に聞くことも推奨されます。子どもが自分の判断で重要な決断できる、という意味でも、18歳選挙権と自立はとても密接な関係にあるといえます。

また、比較的身近にボランティア活動ができる環境があるアメリカにおいて、若者が日ごろから社会問題の解決のため、ボランティア活動などに参加することで、政治家にどのようなことを求めているのかも見えてきますので、こうした経験は選挙の投票にも役立ちます。

以前マートンとは大学で授業をしたことがありました。授業では若者の政治への関心も大きなテーマになっていました。マートンも18歳で選挙権を持って以降、すべての大統領選挙で投票をしてきたそうです。“自分の住む国、自分の住む地域のことを自分たちが考えないで、だれが考えてくれるのだろう。自分たちの住む地域、国をよりよくするために、政治に対し関心を持って、正しい選択をすることが重要！”と、日本の大学生に自身の考えを共有しました。

今年アメリカは大統領選挙の年です。常に移民が流入している国で、チョイスの権利を強く持つ国民性は、選挙にも大きく影響をもたらします。現オバマ大統領は“Change！”を合言葉にアフリカ系アメリカ人初の大統領になりました。今年は新しい価値観を持った大統領候補が登場しています。1年という長い期間をもって候補者を国民が精査する、いわば政治家の就職面接のようなものです。今就活で奮闘する大学生ならわかるはずですが、どれだけ厳しい目で面接官が接してくるかを。国民はその厳しい目を選挙の時、候補者一人一人に向けていくことが重要です。（つづく）

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した。ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。
全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>